眼育総研
www.469up.com

なぜか語られることのない

レーシックの真実

「レーシック手術って気軽に受けて大丈夫なもの?」

レーシックの、報道されていない真の姿と

そのリスクについて徹底解説

みなさんはレーシックという「視力回復手術」のこと、聞いたことはありますよね？

最近は芸能人やスポーツ選手などが広告塔になり、
テレビで取り上げられたりしています。
そんな宣伝を目にしたあなたは、

「もし近視になっても、レーシック手術をすれば大丈夫じゃないかしら？」

なんて、思ってはいませんか？

ちょっと待ってください！

こうした安易な考え方は、真の眼の健康にとって、
とても危険なものなのです。

今回は、**「眼育（めいく）博士」**に、
レーシック手術について、とことん解説してもらいました。
レーシック手術の事が気になっていた方、レーシック手術の
真の姿を知りたい方、じっくり読んでみてくださいね。

《ちゃんと知りたい！レーシックの本当のこと》

登場人物

眼育（めいく）博士

眼育トレーニングの創始者で
眼の健康のエキスパート

ケンタ

9歳。学校の健康診断で
視力が落ちていたことが
発覚

ミドリママ

30代のワーキングマザー
息子のケンタの視力を、何とか
回復させたいと思っている

〈プロローグ〉

ミドリママは、学校の健康診断で、ケンタの視力が落ちていたことで、
とてもショックを受けていました。そのため、ケンタの姿勢を
きびしくチェックしたり、ゲームの時間のことでケンタとケンカに
なったりしていました。そんなある日、ママ友達から眼育の評判を聞き、
自宅で視力回復ができるトレーニングキット、
「眼育 ingＢＯＸ（メイキングボックス）」の資料を、
インターネットから取り寄せてみました。

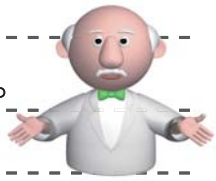
**毎日簡単なトレーニングを続けるだけで、
楽しみながら視力が回復できるようです。**

「このトレーニングを始めたら、もう視力が下がる心配がなさそうね」そう考えたミドリさんですが、なにげなく見ていた女性誌で、次のような派手な広告が目にとまりました。

「簡単で安全な手術で誰でも視力が回復！」

「手術は時間がかからず、入院の必要もなし」

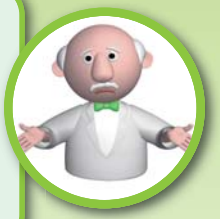
そうです。



ミドリママが見たのは**「レーシック手術」**の広告でした。
「もしケンタがこのまま近視になってしまっても、いずれ
「レーシック手術」をすれば問題ないんじゃないかしら？」
レーシックが気になり始めたミドリママは、思い切って、眼育（めいく）
博士のもとをたずね、いろいろ質問してみることにしました。

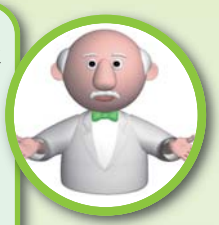
【歴史が浅く、長期にわたる安全性に不明な点も】

「レーシック手術は、海外ではポピュラーだと聞きました。日本でも、スポーツ選手や芸能人が受けた経験を語ったりしていますが、それだけ効果があるってことなんでしょうか？」



「レーシック手術は、簡単に言うと、レーザーで角膜を削ることによって、視力を向上させようとする手術です。でも、18歳を過ぎるまでは、レ―シックを受けることはできないんですよ」

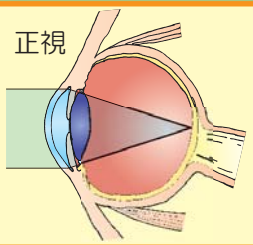
「どうしてですか？」



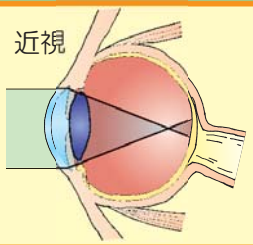
「成長期の子供は、背が日に日に伸びていきますよね。同じように、眼球もまだ成長を続けています。そのため、眼球の奥行きを表す眼軸（がんじく）は、とても変わりやすい状態にあります。眼軸は、視力への影響がありますので、眼球の成長が完全に終わるまでは、視力も変動しやすい状況にあるのです。レーシックでは、角膜を削ってしまいますから、成長とともに、視力がまだ変わる可能性のある子供には、手術ができないというわけです」

「そうなんですね。では、成人してからなら、レーシック手術をすれば、近視は治ると考えても良いんでしょうか？」

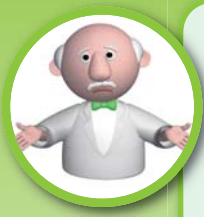
「うーん、実はそうとは言い切れないんですね・・・。レーシックについて、もう少し詳しく説明しましょう。近視というのは、眼に入ってくる光の屈折の調節がうまくできなくなるため、焦点が合わなくなることから始まります。メガネやコンタクトレンズで遠くが見えるようになるのは、これらのレンズが、光の屈折の調節を補ってくれるからです」



網膜上でピントが合っている状態



網膜の手前でピントが合っている状態



「レ—シック手術は、メガネやコンタクトレンズの替わりに、角膜の形そのものを変えることで、レンズの働きを補うことが目的です。レーザー光線をあて、角膜の表面を削り、カーブを変えることにより、光の屈折の仕方を変えてしまいます。」

「ちょっと怖いですね。
角膜にレーザーをあてて削っていくなんて・・・」

「失明の危険は、ほとんど無いといわれています。
ただし、歴史が浅いため、長期にわたる安全性は実証されていないという点をふまえておく必要があります」

「レーシック手術は、いつ頃から
始まったんですか？」

「世界で初めてのレ—シック手術は、1990 年です。
ギリシャ人医師によって行われました。レ—シックとは、もともとギリシャ語で、“ レーザー光線を照射して角膜を削り整える ”という意味を表す言葉の、頭文字を並べたものなんです。（LASIK）
アメリカでは、1995 年に認可されました。
日本では、2000 年に厚生労働省が認可しています」

「まさに、ごく最近始まった
手術なんですね・・・」

「いまでは、日本でも1年に約30万件が行われています。
といっても、安全性や効果に、未だ不明な点があることは、否定ができません」

【100%成功するわけではない】

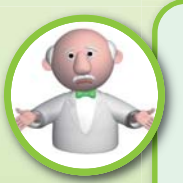
「レ—シック手術を受けるには、どれくらい費用がかかるんですか？」

「日本では、レ—シック手術に健康保険は認められていません。そのため、治療費はとても高くなります。自由診療のため、眼科により手術費が違ってきます。手術費以外にも、さまざまな費用がかかってきます。一般的には、両目で 20 万～60 万円程度の手術費といわれています」

「そんなに幅があるんですか」

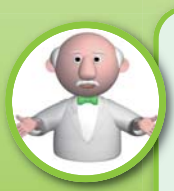
「眼科によっては、インターネット割引やキャンペーンなどの企画で、両目のレーシック手術を、15 万円ぐらいで実施すると表示しているところがあります。ただし、この料金に、検査代や定期検診代を含んでいるかどうかは、確認が必要です。なぜならレーシック手術でかかる費用は、手術費だけではないんです。そもそも手術が受けられるかどうかを検査する費用や、処方薬の代金、術後の検診の費用もかかります。これら全てが含まれて費用として表示されている場合と、別に請求される場合があるんです」

「手術が受けられるかどうかを、検査するんですか？」



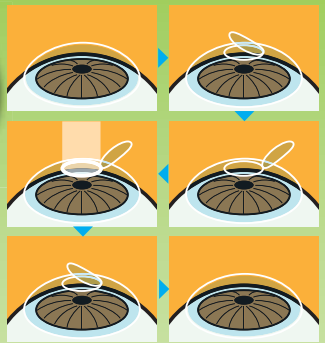
「はい、レーシック手術の前には、必ず手術が可能かどうかを検査します。レーシックの手術前検査では、視力、屈折率、眼圧、角膜の形や状態、角膜の厚さ、角膜内皮細胞数、涙の量など、さまざまな項目を調べます。その結果、重度の近視だったり、角膜の形や厚さによっては、手術ができないことがあります。特に、角膜が薄い人は難しいようです。レ—シック手術では、角膜を削ってフラップと呼ばれるフタを作ります。角膜が薄い人は、このフラップを作ることができないのです。」

「望んでも受けられない場合があるんですね」



「そうです。また、レ—シック手術を受けたあと、眼圧によって角膜のカーブの角度が変わってしまうと、再び手術を受けて、調整しなければならないこともあります。プロゴルファーのタイガー・ウッズも、1度レ—シック手術をしたものの、再調整の手術を受けているんですよ」

「ということは、1回の手術で終わらない場合もあるんですね」


レーシック手術の流れ

「そうですね。そして、人によっては、1度目はできても、2度目の手術が受けられないことがあります」

「日本では、レーシック手術を行う眼科が増えているようですね。それだけ希望する人が増えているんでしょうか」

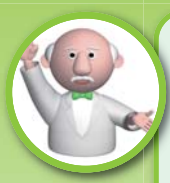
「そうですね。でも信頼できる眼科を選ぶのは、なかなか大変です。現在、日本眼科学会が認める眼科専門医だけが、レーシック手術を行うことができます。でも、技術や機器の性能は、眼科によって相当違います。なかには、技術が未熟だったり、最新の機器が使われていなかったり、衛生状態が良くない医院がある、というのも現実です。少し前に、レーシック手術を受けた患者が、次々と感染性角膜炎になったという事件がありました。これは、手術のための専用室を完備していない、衛生管理が不十分なクリニックで手術を行ったのが原因です」

「きちんとした医院を選ばないと怖いですね・・・。レーシック手術には、後遺症のようなものはあるんでしょうか？」

「はい。後遺症といえるものには、いろいろな種類があります。たとえば、よく報告されているケースは、強度のドライアイや、白目の充血といったものです。レーシック手術は、角膜の表面を削る際、神経も遮断されるため、どうしても角膜の表面が乾きやすくなってしまうんです。このような場合、ドライアイを防ぐには、目薬で、常に水分を補うようにしなければなりません。また強い近視の人がレーシック手術を受けると、眼のコントラストが低下し、映像がクリアに見えにくくなるという症状が起きることがあります。また、夜間に外灯などの光がまぶしく見える“グレア現象”や、光の周りに放射状のモヤがかかっているように見える“ハロー現象”が起こる場合もあります。これらの後遺症は、すぐに治療をすることで治ることも多いのですが、人によっては、長期にわたって悩まされる場合があります。でも、レーシックのリスクは、後遺症だけではないんですよ」

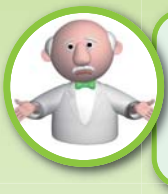
「え？　それはなんですか？」

「レーシック手術をしても視力が落ちることがある？」



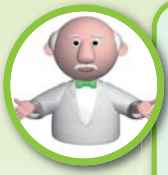
「必ずしも、望み通りの視力が得られない場合があることです。これがレーシック手術の一番のリスクといえます。単純に視力が回復しない場合もあれば、削りすぎて遠視になってしまう場合もあるんです。遠視になってしまうと、近くのものが見えづらくなり、今度は遠視用のメガネが必要になることがあるんですよ」

「せっかく手術したのにメガネが必要になるなんて･･･」



「また、暗いところが見えにくいため、夜、車を運転するのが難しくなったという人もいます。そして、より長期的にみていくと、レーシック手術を受けたことによって、首や肩、のど等に問題が出るケースがあることが、報告されています。また、脳の機能にも影響がある場合があります」

「ほんとですか！？　それは困りますね」



「手術後に、眼精疲労や吐き気、頭痛などに悩まされている人がいます。人間がものを見るとき、眼球で焦点を調節し、網膜に情報を集めていきます。そして、網膜に集まった情報は、視神経を通り、後頭部にある脳の視覚野まで届けられます。そして、視覚野で何が見えたのかを認識するのです。レーシック手術を受けても、認識機能を司っている視覚野は、近視のときを前提とした能力のままです。そのため、角膜の形だけを変えても、その変化が大きすぎると、いろいろなバランスが崩れてしまうことがあるんです。特に、眼球を動かしたり、視力を調節する筋肉に、負担がかかりやすくなるといわれています。ところでミドリママは、普段どのくらい遠くを見る機会がありますか？」

「会社ではデスクワークですし、家では家事をしていることが多いですから、近くを見ている時間が、だんぜん多いですね。あまり、遠くは見ていないかもしれません」

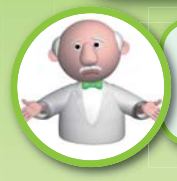
「そうですよね。現代社会で遠くを見る機会が多いのは、屋外でプレーするスポーツ選手ぐらいです。ですから、近くを見る時間が長い人の視力が、突然大きく上がると、身体が対応できなくなる場合があるんです。眼が疲れやすくなったり、吐き気がしたりするのもそのせい。自律神経失調症をもたらすことだってあるんですよ」

「度の変化をつけすぎたメガネをかけた時と、似たような状態ですね」

「まさにそのとおりです。メガネだったら、はずせば終わりですが、手術の場合は、そうはいきません。それに、たとえ後遺症はなかったとしても、術後に近視になりやすい生活をしていれば、視力は再び下がる心配があります。視力が再び下がった場合、先ほども説明したように、角膜の状態によっては、再手術は受けられないことがあり得ます」

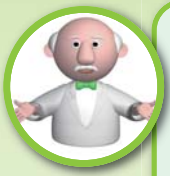
【視力は一生の財産と考えて】

「手術を受けたら、もうそこから視力は落ちないのかと勝手に思い込んでいましたが、メガネをかけた後も視力が落ちる場合があるのと、同じ事なんですね」



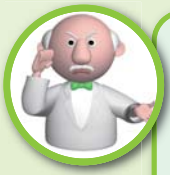
「そうなんです。しかも、一度レーシックを受けたら、もう角膜を以前の状態に戻すことはできないんです。削ってしまった角膜は、元どおりには戻せませんからね」

「夢のような技術と信じ込んで、誰もが安易に受けていいものではなさそうですね」



「ええ。レーシック手術は、例えば、プロスポーツ選手のように、裸眼での良い視力の必要性が圧倒的に高い場合や、左右の激しい視力差や乱視の度数が大きいため、メガネやコンタクトレンズの使用が難しい場合などに、検討すべきだと思います。普通のサラリーマン、特に日常的にパソコンを長時間使うような仕事をしている方が、リスクも知らずに安易に受けるようなものではないということは、知っておいた方が良いと思います」

「ケンタの視力がすごく悪くなっても、いずれレーシック手術を受ければいいか、なんて思い始めていたので、ここに相談に来て、本当に良かったです！」



「成長期が終わる頃までに、ある程度の視力を保っていることは、後々とても大きな財産なんですよ。なぜなら、視力が0.1以下の重度近視になるケースは、ほとんどが成長期における目の使い方の環境によって、なっている場合が多いんです。20歳過ぎてから視力が落ちた場合は、相当目に悪いことをしても、せいぜい0.2～0.4の中度近視程度で止まることが多いのです。成長期が終わるまでに“メガネが必要のない視力”を保てたら、眼の子育てに関しては、成功したと思って良いのです。

「成長期の間に視力を維持する事がそんなに重要だなんて、言われるまでは気づきませんでした。」

「今は、近視の数が増えすぎて、視力が悪くても別に大したことじゃないという風潮も出てきているようですが、成長期における視力のケアには、くれぐれも注意してください。できれば、眼育のようなトレーニングで、子供の頃から眼の基礎力と“近視になりにくい眼の使い方”を身につけておくと、その先の長い人生の中で、視力を守ることがずっと容易になりますよ」

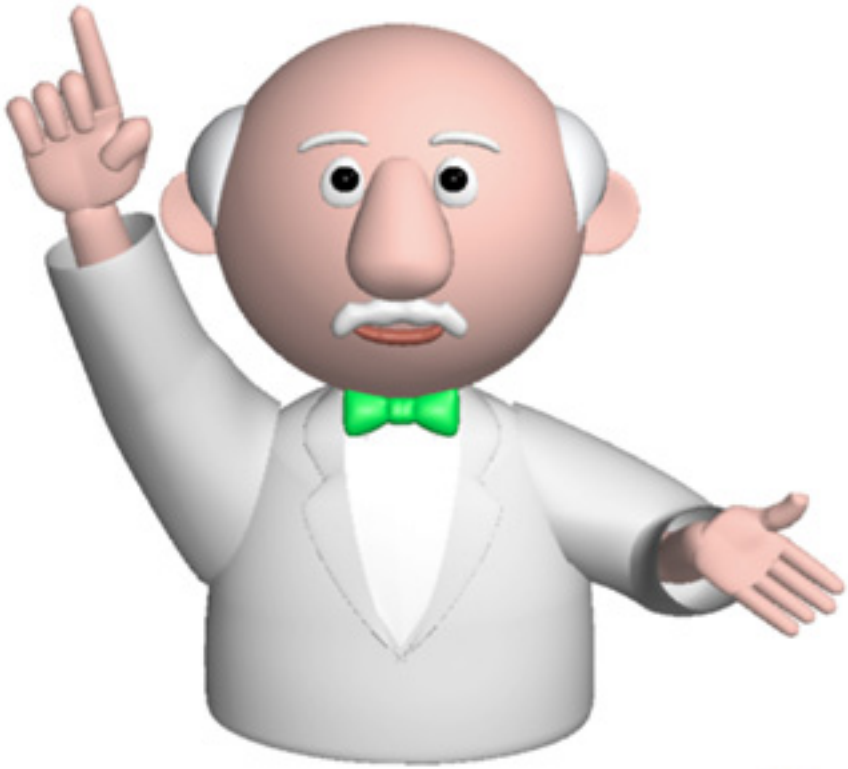
「本当ですね。レーシックを受ける費用に比べたら、眼育の費用なんて10分の1以下ですしね。今日は、貴重なお話を、本当にありがとうございました」

発行：子供の視力回復トレーニングや効果的な視力回復法を伝授する眼育総研 ©2011
メール：info@469up.com　電話：045-988-5124　平日 11：00 ～ 18：30 ／土日祝日 休

最後までお読み頂き、
ありがとうございました。

**下のアンケートに答えるボタンをクリックして、
今回の内容について、ぜひ感想を聞かせてください。**

アンケートに答える



眼育総研
www.469up.com